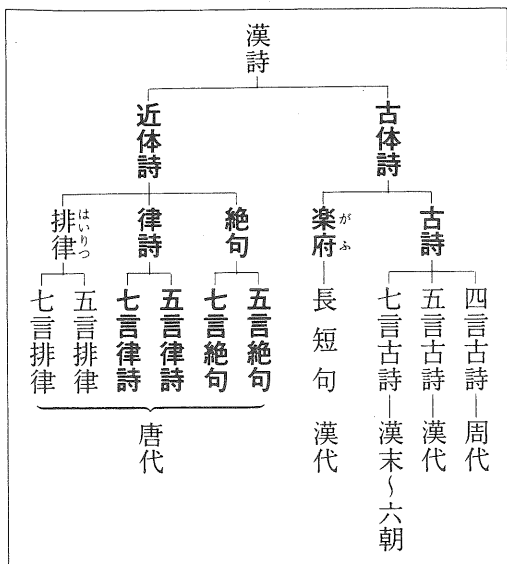


21 重要句法(9) 漢詩(絶句)

古体詩と近体詩

中国の古典文を漢文と呼ぶように、中国の古典詩を漢詩と呼びます。中国の詩の歴史は古く、今から三千年程前には、すでに立派な詩が作られています。今から千二百年程前の唐代には、詩の新しい展開がありました。それを私たちは近体詩と呼びます。近体詩は今体詩とも書きますが、おもに絶句と律詩のことをいいます。これに対して、唐代以前に作られた漢詩は古体詩と呼びます。



【練習問題】

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中国の古典詩は周の①〔ア〕『詩経』④〔イ〕『楚辞』

⑤〔ウ〕『楽府』に始まり、②〔ア〕漢④〔イ〕唐⑤〔ウ〕明に代に至って完成期をむかえる。この時期、詩はさまざまな形式で作られたが、大別すれば古体詩と近体詩(今体詩ともいう)とに分かれる。

古体詩は韻律上の約束は③〔ア〕ゆるやか④〔イ〕厳格であり、一首の句数は不定である。一方、近体詩の場合はといえば、韻律上の約束は④〔ア〕ゆるやか④〔イ〕厳格であり、一首の句数は、ほとんどが⑤〔ア〕八句④〔イ〕四句あるいは八句⑤〔ウ〕不定である。

具体的な詩形でいえば、この時期の精華は律詩と絶句といえよう。律詩はふつう⑥〔ア〕四句④〔イ〕六句⑤〔ウ〕八句から成り、絶句は⑦〔ア〕四句④〔イ〕六句⑤〔ウ〕八句より成る。一句の字数は、ほとんどが五字と⑧〔ア〕四字④〔イ〕七字⑤〔ウ〕八字である。

このうち絶句は、第二句と第四句とに脚韻をふみ、次のような展開を示す。第一句は導入部であり、これを〔A〕句という。第二句はその発展であり、〔B〕句という。第三句は転換して

絶句

絶句とは「短い歌」という意味ですが、詩の形として呼ぶときは、次の条件を備えているものをいいます。

①四句から成る

一句が五字から成るものは、五言絶句

一句が七字から成るものは、七言絶句

②押韻をする

五言絶句ならば…二句目と四句目末

七言絶句ならば…一・二・四句目末

江 碧 鳥 愈 白
山 青 花 欲 然
今 春 看 又 過
何 日 是 帰 年

二句目は然 (z en) en
四句目は年 (n en) en
このように同じ韻をもつ漢字をそろえることを押韻という。

③構成は起承転結で

起句(第一句)……内容を歌い起こす。

承句(第二句)……前句をうけて展開。

転句(第三句)……前と内容を一転する。

結句(第四句)……全体をまとめて結ぶ。

※近体詩以外はすべて古体詩

唐代以降でも規則に従わずに作られた詩は古体詩と呼びます。

※起承転結の手法

江戸時代の漢詩人頼山陽は、次の俗謡を用いて起承転結の手法としたといわれます。

大坂本町糸屋の娘
姉は十六 妹は十四
諸国諸大名は弓矢で殺す
糸屋の娘は目で殺す

※韻をふむ

漢字の一字一字は、すべて一音節でできています。このうち、最初の子音を「声」と言い、残りの部分を「韻」といいます。「白」(aku)は「h」が「声」で「aku」が「韻」になります。この韻をそろえることを、韻をふむといえます。

※韻の見本

江戸時代の学者梁川星巖は起承転結と押韻を教えるのに次の俗謡を用いたといわれます。

伊勢は津で持つ 起
津は伊勢で持つ 承
尾張名古屋は 転
城で持つ 結

通釈

ア春の明けがたの眠りは心地よく、いつ夜が明けたとも気づかない。ふと目ざめると、あちらこちらで鳥のさえずりが聞こえる。

思えば昨夜は、夜通し風交じりの雨。いったい夜の間に、花はどれほど散ったのやら。

イ三千丈もあるかと思われる我が白髪。心に尽きぬ愁いがあるために、このように長くのびたのであろう。それにしても、澄んだ明るい鏡の中のこの白髪。いったい秋の霜のような厳しい白さを、自分はどこで身につけたのだろう。

「古詩十九首」「楽府」から

漢代に作られた五言古詩。それは『文選』に十九首記されて、一口に「古詩十九首」と呼ばれているが、この古詩は名句の宝庫である。「胡馬北風」に依り、越鳥南枝に巢う(故郷を恋慕すること、或いは故郷を忘れ難く思うこと)や、「古墓は犁かれて田と為る」(世の中の移り変わりの激しいことの喩え)は、その中の一つである。また、楽府にも名句は多く、「渴すれども盗泉の水は飲まず」や「李下に冠を正さず」(人から誤解を受けることはしない)などが、それである。

【演習問題A】

雑詩 唐 王維

君自^{より}故郷^{こきやう}来^{きた}

応知^{おうち}故郷^{こきやう}事

来^{きた}日^{にち}綺窓^{きそう}前^{まへ}

寒梅^{つげんや}著^つ花^は未^{まだ}

〔注〕綺窓＝美しいあやぎぬのカーテンをひいた窓。

問一 この詩の詩形を答えなさい。

問二 この詩で押韻してある字を書きなさい。

問三 起句を書き下し文にしなさい。

問四 承句を書き下し文にした場合、次のうちどれが正しいですか。正しいものの記号を書きなさい。

- ア 応に故郷の事を知らんとす
- イ 応に故郷の事を知るべし
- ウ 故郷の事を知るに応ず
- エ 故郷の事を知ると応ふ

問五 転句の「来日」というのは、具体的に誰がどうした日を用いるのですか。それを簡潔に記しなさい。

問六 結句の訳としては、次のうちどれがよいですか。記号で答えなさい。

- ア 寒梅は開花していたかどうか。
- イ 寒梅はもう花を落としていただろう。
- ウ 寒梅は未だ花をつけていなかっただろう。

通釈

思いつくまま
あなたは（私の）故郷からやってこられた。
（だから）きっと故郷のことを知っておられるでしょう。
（あなたが故郷を）出発された日、（私の家の）美しいカーテンのある窓の前では、
あの寒梅は、もう花をつけていたでしょうが、まだだったでしょうが。

「花発多風雨・人生足別離」
花が咲く季節には、とかく風や雨が多い。同じように、人の世は思うようにならないことの喩えである。日本の諺にも「月にむら雲、花に風」などがある。ところで、この詩句は、晩唐の詩人、于武陵の「勸酒」の一句である。勸君金屈厄。君に勸む金屈厄。満酌不須辞。満酌辞するを須ひず。花発多風雨。花発きて風雨多し。人生足別離。人生別離足る。この詩に、井伏鱒二は、次のような訳を与えた。恐らく、原詩を知らなくとも訳詩を知っている人はいるかもしれない。名訳の典型であろう。コノサカヅキヲ受ケテクレドウゾナミナミツガシテオクレハナニアラシノタトヘモアルゾ「サヨナラ」ダケガ人生ダ。特に最後の句は訳詩の方が有名だ。

【演習問題B】

春夜 宋 蘇軾

春宵一刻直千金

花有清香月有□

歌管楼台声寂寂

鞦韆院落夜沈沈

〔注〕春宵＝春のよい。一刻＝短い時間。歌管＝

「歌」は声楽。「管」は管楽器。楼台＝高樓、

たかどの。寂寂＝音もなく、ひっそりと。鞦韆＝ブランコ。宮廷の女性の遊びの具。院落＝中庭。周囲が建物で囲まれている。沈沈＝夜の更けゆくさま。

問一 この詩の形式は次のうちのどれですか。記号で答えなさい。

- ア 五言古詩 ① 七言古詩
- ウ 五言絶句 ② 七言絶句
- オ 五言律詩 ③ 七言律詩

問二 詩中の空欄には、次のうち、どの言葉が適当ですか。記号で答えなさい。

- ア 光 ④ 影 ⑤ 陰

問三 次のこの詩に対する批評です。適当でないと思うものの記号を記しなさい。

- ア 春の夜の甘い気分がたよう作品である。
 - イ 春の夜の快くも哀愁を感じさせる情緒がたよう作品である。
 - ウ 月や花の美しい風情が、夜のしじまの中で意識される作品である。
 - エ 春の夜のはかなさ、人の世のはかなさを意識させる作品である。
 - オ 誰もいない中庭や高殿、春の夜の豊かさを感じさせる作品である。
- 問四 「春宵一刻直千金」とは、春の夜の美しい一時は何にも換えがたい価値のあることを歌ったものです。この詩句の価値はどういう点にありますか。適当なものの記号を記しなさい。
- ア 「春宵」という自然の価値を「千金」という具体的なものに置きかえた点。
 - イ 「一刻」という時間の推移を「千金」という価値ではかった点。

通釈

春の夜の一時は、千金もの値打ちがある。花は清らかな香りを放ち、月はおぼろにかすむ。
（先ほどまで）歌声や笛の音で（ざわめいていた）高殿も、（今は）音もなく、ひっそりと静まりかえり、ただブランコの垂れ下がっている中庭に夜はしんと更けてゆく。

「少年易老学難成」

少年時代というのはそう長くはない。だが学問は成し遂げ難い。だから勤勉に勉強すべきだという、教訓の意味に用いられる。全句とも教訓に満ちた詩であり、どの句もよく使われる。少年易老学難成。一寸光阴不可轻。未觉池塘春草梦。阶前梧叶已秋声。一、二句目は独立しても使われるが、三、四句は対で使われることが多い。池の堤に萌え出た春草、それが夢から覚めぬうち、階段の前の青桐の葉は、秋の寂しげな音をたてているとは、時の推移の早さを戒めた句である。詩は朱熹の作とされるが、偽作説もあって定かではない。一般に宋人の詩は、理屈や教訓じみたものが多く、蘇軾や朱熹も、例外ではない。

22 重要句法(10) 漢詩(律詩)

律詩

律詩は絶句よりもさらに制約の多いものです。律詩(排律)についてはふれませんが)は次の条件を備えています。

- ① 八句から成る。
 - 一句が五字から成るものは 五言律詩
 - 一句が七字から成るものは 七言律詩
 - ② 押韻をする。
 - 五言律詩ならば …………… 偶数句末
 - 七言律詩ならば …………… 一句目末と偶数句末
 - ③ 構成は起承転結。(ただし二句を一つの単位とし、連と呼ぶ)
 - 一・二句 起連……………首連(起)
 - 三・四句 前対……………領連(承)
 - 五・六句 後対……………頸連(転)
 - 七・八句 結連……………尾連(結)
 - ④ 三・四句と五・六句は対句にする。
 - 三・四句目の対——前対(領連の部分)
 - 五・六句目の対——後対(頸連の部分)
- ※ただし領連を首連に移すこともあります。
※前対・後対のほかに首連に対句を作ることもあります。

中国の詩人

中国の詩人に関する質問もよく問われます。その詩人が何時代に活躍したかは、やはり、詩の理解のために必要なことでしょう。

周	春秋	漢	六朝	唐				明
				初唐	盛唐	中唐	晚唐	
屈平(原)	『楚辞』	古詩十九首・楽府	陶潜(淵明)	李白(太白)	杜甫(子美)	韓愈(退之)	白居易(楽天)	高啓(青丘)
民謡時代	『詩経』			王維(摩詰)	孟浩然(浩然)	韋應物	柳宗元	

※李・杜・韓・白——四大詩人
王・孟・韋・柳——四大自然詩人
蘇・陸・高——唐以後の三大詩人

※漢詩の読み

五言詩ならば、二・三に切って読む、七言詩ならば、四・三に切って読むのです。

このことを踏まえますと、詩は読みやすくなりますし、少し判読し難いような詩句も、誤りなく読めるようになります。

- 「孫 有 母 未 去」
 - (ア)孫に母有り、未だ去らず
 - (イ)孫には母の未だ去らざるあり
- (ア)の読みは、「三・二」に切って読んでいますから、誤りなのです。

※対句

二つの句の字数がまったく同じであり、文法的な構成も似ており、意味の上でも何らかの対応をしている二句を対句と呼びます。

右の詩句を見ますと、「星・月」は名詞、「垂・湧」は動詞、「平野・大江」は名詞、「闊・流」は用言というように文法的に対応し、意味も関連しています。これが対句です。

実際には、「実辞と実辞」「虚辞と虚辞」の対応でも対句とします。

※盛唐の三大詩人

私たちはよく、李・杜とか韓・白とかという言い方をします。これを併称というのですが、こういう併称は二人に共通な点があるいは相違する点があるからです。盛唐の三大詩人は「李杜王」と呼ばれますが、それぞれが、やはり個性的です。

※李白

李白の詩は自由奔放・浪漫的で、表現は豪壮です。自然・友情・酒などを好んで詩題にとりあげた天才型の詩人でした。絶句にすぐれ、人々は「詩仙」と呼んでいます。

※杜甫

杜甫の詩は謹厳実直・社会的で表現は緻密です。社会の矛盾や不遇の人生を詠いあげた努力型の詩人でした。律詩にすぐれ、人々は「詩聖」と呼んでいます。

※王維

王維の詩は穏健閑雅・心理的で表現は閑静です。自然を愛し、また絵画にも長じ、仏教に帰依した知識人でした。作風は淡泊で、人々は「詩仏」と呼んでいます。絶句に優れた作品を多数残しています。

【練習問題】

次の二つの文を読んで、後の問いに答えなさい。

I 李白の詩が偉大な情熱の所産であることは、杜甫と同じであり、またその情熱が、中国の詩人の常として、政治への関心とつらなっていることも、程度の差こそあれ、杜甫と同じである。ただ情熱のふき出し方はすこしちがう。杜甫は何よりも人間にむかって誠実であることををねがう。したがって、その情熱を人間への誠実としてかたむける。ところが李白の関心は、情熱そのものにある。いわば情熱そのものに対して誠実である。杜甫は人々へのよき奉仕者であることをねがう。李白は剛毅な人間の代表であることをねがう。人々への誠実をこころざす杜甫は、どうしても世の中のことが気にかかる。

情熱そのものに忠実な李白は情熱をいざなう機会に敏感である。 B。

II 李杜の二家は、その才、優劣なし、ただし杜は体裁明密にして法の尋ねべきあり、李は興会標拳し、学んで至るべきに非ず。故に後の詩人、杜を学ぶ者衆きなり。

問一

Iの文章は、吉川幸次郎・三好達治「新唐詩選」の文章です。空欄A・Bに次の語句を入れなさい。

- ㊦ だから快樂の詩に富む
- ㊧ だから憂いの詩に富む

A	B
---	---

問二

IIの文章は中国人の李白と杜甫に対する批評です。その訳を次にあげますから、訳文の空欄をうめなさい。

李白と杜甫の二人は、その A に優劣はない。ただ杜甫の方は B がはつきりしている。厳密だから、 C しうべき法則があるが、李白の方は、おもいつきが D するから、まねても E しにくい。だから後世の詩人も、杜甫をまねるものの方が F なのである。

- A ㊦ 努力 ㊧ 思想 ㊨ 才能
- B ㊦ 詩の作り方 ㊧ 感情表現
- C ㊦ 追跡 ㊧ 永続 ㊨ 変化
- D ㊦ 屈折 ㊧ 飛躍 ㊨ 低迷
- E ㊦ 活用 ㊧ 到達 ㊨ 模倣
- F ㊦ 困難 ㊧ 多数 ㊨ 中心

【演習問題A】

春望 唐 杜甫
国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

問一 この詩の形式を何といひますか。

問二 この詩の押韻の字を、順番に書きなさい。

問三 第三句を、第四句を参考にして、書き下し文にしなさい。

問四 第六句の「書」の意味と同じ意味の語句を選び、記号で答えなさい。

- ア 書跡 イ 書簡 ウ 書籍
エ 書類

問五 八句のうち、対句構成をとっていないのは、どの句とどの句ですか。

問六 我が国で、この詩の冒頭部「国破山河在」をもとに名文を書いた俳人があります。その名前と書名を書きなさい。

- (人名) (書名)

問七 この詩は、自然と人事をどういう関係でとらえていますか。次から適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 比喩 イ 融合 ウ 対比
エ 矛盾 オ 象徴

通釈
春のながめ

国都（長安）は破壊されたが、山や河の自然は、昔のままに存在している。町には春がやってきて、（人の姿もなまに）草木は再び茂りはじめた。時勢の悪いことに感慨をもよおしては、花を見ても涙のたねとなり、家族との別れを恨めしく思つては、鳥の声を聞いてもはつとさせられる。（戦争を告げる）のろしの火は、三カ月も絶えることなく続き、家族からの手紙は、（今は）万金の値がするほどである。白髪頭を掻きあげるといふと、髪はさらに少なくなつており、もはやすつかり、かんざしをさすこともできなくなりそうだ。

「古稀」

今日、七十歳のことを「古稀」と呼ぶが、これは、杜甫の「曲江」という詩の一句「人生七十古来稀」に由来している。確かに当時は七十まで生きることが大変なことだったに違いない。ちなみに、志学（十五）、而立（三十）、不惑（四十）、知命（五十）、耳順（六十）、從心（七十）は、『論語』為政篇から出た語である。ついでに喜寿（七十七）、米寿（八十八）、白寿（九十九）、華甲（六十一）がなぜできたか考えてみるとよからう。

【演習問題B】

香炉峰下新卜山居
草堂初成偶題東壁
日高睡足猶慵起
小閣重衾不怕寒
遺愛寺鐘欹枕聽
香炉峰雪撥簾
匡廬便是逃名地
司馬仍為送老官
心泰身寧是歸處
故鄉何獨在長安

唐 白居易

問二 線①はどんな意味ですか。左のうち正しいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 名声を失ってしまう。
① 悪い噂がたたない所。

問三 線②は、左のうち、どこをさしますか。記号で答えなさい。

- ア 香炉峰 ① 匡廬 ウ 長安

問四 第三句と第四句は、殊に有名な対句です。これを取りいれた日本の随筆と、その著者を書きなさい。

- (書名) (人名)

問五 線③は、「故郷はどうして長安だけであろうか」の意味です。累加形や限定形であることを踏まえて（56頁参照）、書き下し文にしなさい。

問一 詩中の□内に、左のうち、適当な語を選び、記号で答えなさい。

- ア 看 ① 仰
ウ 見 エ 取

通釈

香炉峰のもとに新たに山居を作り、その草堂がようやくできあがった時、その東の壁にかきつける。
日は高くのぼり、眠りも十分であるのに、なお起きるのがおっくうだ。
この小さな二階で夜具を重ねて寝ていると、寒さもまったく気にならない。遺愛寺で打ち鳴らす鐘は、枕の上に頭をもたげて聞き、香炉峰に積もった雪は、すだれをはねあげてみる。
この廬山は、そのまま世間の名利を忘れて遠ざかるのによい土地であり、（私の官職である）司馬という地位は、それでもなお、老後を送るにはふさわしい官職である。
心もやすらかに、身もやすらかにできるところこそ、安住の地である。
（とすれば）故郷はどうして長安だけと限ることがあろうか。長安のみならずこの廬山も故郷と言いうるのである。

「比翼連理」

白楽天の詩から出た名句は多いが、中でも「長恨歌」からの名句は多い。「比翼連理」とは、雌雄羽を連ねて飛ぶ鳥、両樹の枝が互いに連なっている様を言い、男女の深い契りを表す。結婚式等で今も使われる語句である。

高2 漢文 作詩用箋(七言絶句)

題「

1

2

3

4

5

6

韻字

7

起句

承句

転句

結句

注意

2 4 不同
2 6 対
1 3 5 不論
4 字目の孤平不許
下三連 不許

反法 1 2 句、3 4 句の2 字目は平仄を異にする。
粘法 2 3 句の2 字目の平仄を同じくする。

			○
			⊙
			○
			⊙
			⊙
			⊙
			○
			○

押韻

			○
			⊙
			○
			⊙
			○
			⊙
			○
			⊙

			○
			⊙
			○
			⊙
			○
			⊙
			○
			○

押韻

			○
			⊙
			○
			⊙
			⊙
			○
			○
			○

押韻

王維

題一

1

2

3

4

5

6

7

「号(生徒)X

韻字

起句

馭

頭

日

落

送

行

人

押韻

承句

離握

別

淚 無

零 那

交

誼

真

押韻

轉句

白

雲

如

夢

楊

柳

綠

結句

行

雲

如

夢

明

月

下

押韻

注意

2 4 不同

2 6 対

1 3 5 不論

4 字目の孤平不許

下三連 不許

反法

2 3 句の2字目は平仄を異にする。
粘法 2 3 句の2字目の平仄を同じくする。

遙

望

東

都

莫

遠

巡

車

程

千

里

莫

遠

巡

如

雲

如

夢

明

月

下

白

雲

如

夢

楊

柳

綠

東郊から左邊